

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 2 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780306

研究課題名(和文) 認知症患者を支える家族の介護負担感が患者に及ぼす影響に関する縦断的研究

研究課題名(英文) Longitudinal association between family caregiver burden and patients' symptoms.

## 研究代表者

小山 明日香 (Koyama, Asuka)

熊本大学・大学院生命科学研究部(医)・助教

研究者番号：50710670

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、認知症介護者の介護負担感が患者に及ぼす影響についての縦断的検討を行い、その結果、介護者が強い介護負担感を持っていると3年後の患者の認知症の行動・心理症状(BPSD)が強く現れやすいことが示された。このことは、介護者への支援が介護者のみならず患者に対してもよい結果をもたらすことを示唆するものである。

また、患者の希死念慮が介護者に及ぼす影響についての検討、認知症介護者と介護をしていない一般地域住民のメンタルヘルスの比較、比較的稀な認知症である意味性認知症の介護負担についての検討も行った。

研究成果の概要(英文)：In a three-year follow-up study, we found that higher caregiver burden affected patients' higher Behavioral and Psychological Symptoms of dementia (BPSD). Our result shows that support for caregivers have a positive effect not only for caregivers but also for patients. We also examined 1) the association between suicidal ideation among patients with dementia and caregiver burden, 2) mental health status among dementia caregivers compared to community residents, and 3) caregiver burden among patients with semantic dementia.

研究分野：精神保健

キーワード：認知症 介護負担 BPSD

### 1. 研究開始当初の背景

認知症患者を介護する家族にとって、介護の負担やストレスは重要な問題である。これまでの先行研究で、認知症介護者は精神健康が低いことや、患者の認知症の行動・心理症状 (BPSD) や認知機能、ADL/IADL の低下等が介護負担と関連することなどが明らかになっている。

一方で、介護者の強い介護負担感が、患者に負の影響を及ぼす可能性もある。例えば、疲弊した介護者が精神的な余裕のなさゆえに患者の失敗を繰り返し非難・叱責すれば、患者は興奮が激しくなったり抑うつ的になったりすることがある。このように、介護者の介護負担感が患者に及ぼす影響は看過できないものであるが、そうした視点からの研究は国内外でほとんどない。

また、認知症の介護負担に関する研究の多くはアルツハイマー病など主要な疾患のみを対象としていたり、介護をしていないコントロール群を設定していないなど、いくつかの限界がある。

### 2. 研究の目的

本研究では、4年間の研究期間を通じて、以下の検討を行った。

- (1) 認知症介護者の介護負担感が患者に及ぼす影響についての縦断的検討
- (2) 患者の希死念慮が介護者に及ぼす影響についての検討
- (3) 認知症介護者と介護をしていない一般地域住民のメンタルヘルスの比較
- (4) 比較的稀な認知症である意味性認知症の介護負担についての検討

### 3. 研究の方法

(1) 認知症専門外来の初診患者でアルツハイマー病と診断された認知症患者のうち、3年以上通院した203名を対象とした。初診時の患者の認知機能、BPSD、ADL/IADL、介護者の介護負担感が3年後の患者のBPSDや認知機能に及ぼす影響をパス解析により検討した。

(2) 認知症専門外来患者634名を対象として、患者の希死念慮と介護者の介護負担感の関連について検討した。

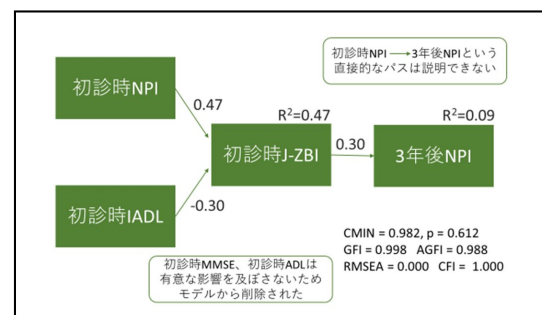
(3) 104名の認知症介護者と年齢性別をマッチさせた地域一般住民の抑うつとQOLを、高齢者と若年者に分けて比較した。

(4) 認知症専門外来を受診する23名の意味性認知症患者家族の介護負担感について、同じ

前頭側頭葉変性症である前頭側頭型認知症患者の介護負担感と比較した。その際、右側優位萎縮例と左側優位萎縮例に分けて比較した。

### 4. 研究成果

(1) 初診時の患者のBPSDとIADL低下により介護者の介護負担感が増大し、それが3年後の患者にBPSDの程度に影響することがパス解析によって説明できた。初診時のBPSDのなかでも、特に興奮と易刺激性が介護者の介護負担感を増大させ、3年後のそれらの症状へと影響していた。これらの結果から、患者の心理的負担感を軽減させるような心理教育や介護サービスの導入が、患者にとってメリットとなる可能性が示唆された。



NPI (Neuropsychiatric Inventory); BPSD を評価する尺度  
J-ZBI; 介護者の介護負担感を評価する尺度

(2) 認知症専門外来を受診した初診の認知症患者634名中10.1%の患者の家族が、患者に希死念慮があると回答した。希死念慮のある患者は希死念慮のない患者に比べて認知症の行動・心理症状 (BPSD) が有意に強かった。希死念慮のある患者の家族は、患者のBPSDを調整しても介護負担感が有意に高かった。一般に、認知症患者は病識が乏しかったり自殺を遂行する能力が十分でなかったりするために自殺率は低いとされており、認知症患者の希死念慮に関する研究は国内外でほとんどないが、本研究結果より、認知症患者のなかにも一定の割合で希死念慮を持つ者がいること、患者の希死念慮は介護者の介護負担感と関連があることが示された。

(3) 認知症介護者と一般地域住民で抑うつ傾向に有意差はみられなかったが、認知症介護者は精神的QOLが有意に低かった。若い世代の介護者は、同世代の一般地域住民と比較して有意に睡眠の問題を多く抱えていた (それぞれ39.1%, 17.0%, p = 0.017)。介護負担感と関連する要因は、若い世代では患者のBPSD、高齢の世代では患者のIADLおよび性別 (患者が女性だと介護負担感が高い) であった。これらの結果より、認知症介護者の精神的QOL維持向上のための支援が必要であるといえる。具体的には、若い世代の介護者にはBPSDへの対処法の心理教育、高齢世代の介護

者に対しては患者の生活を支えるケア資源の活用などが必要である。

(4) 意味性認知症患者の介護負担感は、右型優位萎縮例で高かった。同じ前頭側頭葉変性症である前頭側頭型認知症は介護負担感の強い疾患であることが先行研究でも指摘されているが、右側優位萎縮例では前頭側頭型認知症に近いレベルの介護負担感であった。意味性認知症の介護負担感に関するわずかな先行研究では、意味性認知症の介護者の介護負担感は強くないことが指摘されていたが、右側優位例では介護負担が強いことが本研究で明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Koyama A, Hashimoto M, Fukuhara R, Ichimi N, Takasaki A, Matsushita M, Ishikawa T, Tanaka H, Miyagawa Y, Ikeda M. Caregiver burden in semantic dementia with right- and left-sided predominant cerebral atrophy and in behavioral variant frontotemporal dementia. *Dementia and Cognitive Disorders EXTRA* (in press)

Matsushita M, Yatabe Y, Koyama A, Ueno Y, Ijichi D, Ikezaki H, Hashimoto M, Furukawa N, Ikeda M Why do people with dementia pretend to know the correct answer? A qualitative study on the behaviour of toritsukuroi to keep up appearances. *Psychogeriatrics*. 2017.4

Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, Ishikawa T, Tanaka H, Hatada Y, Miyagawa Y, Hotta M, Ikeda M Mental health among younger and older caregivers of dementia patients. *Psychogeriatrics* 17(2), 108-114, 2017.3

Matsushita M, Pai MC, Jhou CY, Koyama A, Ikeda M Cross-cultural study of caregiver burden for Alzheimer's disease in Japan and Taiwan: result from Dementia Research in Kumamoto and Tainan (DeReKaT). *International psychogeriatrics* 28(7), 1125-1132, 2016.1

Fujise N, Abe Y, Fukunaga R, Nakagawa Y, Nishi Y, Koyama A, Ikeda M Comparisons of prevalence and related factors of depression in middle-aged adults between urban and rural populations in Japan. *Journal of affective disorders* 190, 772-776, 2016.1

Fujito R, Kamimura N, Ikeda M, Koyama A, Shimodera S, Morinobu S, Inoue S Comparing the driving behaviours of individuals with frontotemporal lobar degeneration and those with Alzheimer's disease. *Psychogeriatrics* 16(1), 33, 2016.1

Koyama A, Hashimoto M, Tanaka H, Fujise N, Matsushita M, Miyagawa Y, Hatada Y, Fukuhara R, Hasegawa N, Todani S, Matsukuma K, Kawano M, Ikeda M. Malnutrition in Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies, and frontotemporal lobar degeneration: comparison using serum albumin, total protein, and hemoglobin level. *PLoS One* 11(6), 2016年

Koyama A, Fujise N, Matsushita M, Ishikawa T, Hashimoto M, Ikeda M Suicidal ideation and related factors among dementia patients. *Journal of affective disorders* 178, 66-70, 2015.6

[学会発表](計19件)

小山 明日香, 橋本 衛, 松下 正輝, 池田 学. アルツハイマー病患者家族の介護負担感がその後のBPSDに及ぼす影響 3年間の縦断データを用いた分析. 第32回日本老年精神医学会総会, 第32回日本老年精神医学会, 愛知, ウィンク愛知, 6月14-16日, 2017

今井 正城, 小山 明日香, 西 良知, 橋本 衛, 池田 学, 藤瀬 昇 認知症者の介護をしている地域在住の高齢介護者における抑うつや健康関連QOLの検討. 第36回日本社会精神医学会総会, 東京, 大田区産業プラザ, 3月4日, 2017

吉浦 和宏, 堀田 牧, 村田 美希, 小山 明日香, 橋本 衛, 池田 学. 血管性認知症患者の日常生活能力の特徴. 第8回日本脳血管・認知症学会総会, 東京, 8月5日, 2017

松下 正輝, 小山 明日香, 矢田部 裕介, 勝屋 朗子, 高崎 昭博, 伊地知 大亮, 堀田 牧, 上野 由紀子, 福田 瑛, 佐久田 静, 今井 正城, 小嶋 誠志郎, 池田 学, 橋本 衛. 認知症予防における取り繕い反応の意義 アルツハイマー病、レビー小体型認知症、軽度認知機能障害における取り繕い反応の比較, 第7回日本認知症予防学会学術集会, 岡山, 岡山コンベンションセンター, 9月23日, 2017

西 良知, 小山 明日香, 福永 竜太, 阿部 恭久, 村上 良慈, 濱本 世津江, 橋本 衛, 藤瀬 昇, 池田 学. 熊本県球磨郡あさぎり町でのうつ病スクリーニング調査後に保健

師によるフォローアップを必要とした住民の特徴について. 第 41 回日本自殺予防学会, 茨城, 9 月 23 日, 2017

Koyama A, Fukuhara R, Miyagawa Y, Hotta A, Hashimoto M, Ikeda M. Characteristics of caregiver burden among patients with mild frontotemporal lobar degeneration: Comparisons between behavioral variants of frontotemporal dementia and semantic dementia with right- and left-sided predominant cerebral atrophy. 10th International Conference on Frontotemporal Dementias, Munich, Germany, August 31-September 2, 2016

Koyama A, Hashimoto M, Fukuhara R, Ishikawa T, Ikeda M. Four-Year Progression of Cognitive Function in a Clinical Sample of Patients with Alzheimer's Disease and Amnesic Mild Cognitive Impairment. IPA Asian Regional Meeting, Taipei, Taiwan, December 9-11, 2016

西 良知, 小山明日香, 福永 竜太, 阿部恭久, 向坂香織, 藤瀬 昇, 池田 学. 中高年の地域住民における食習慣と抑うつとの関連について. 第 35 回日本社会精神医学会, 岡山, 1 月 29 日, 2016

堀田 牧, 小山明日香, 橋本 衛, 池田 学. 若年性アルツハイマー病に対する集団療法と家族心理教育を組み合わせた外来支援プログラムの実践 第 50 回日本作業療法士学会, 札幌, 9 月 8-10 日, 2016

吉浦和宏, 堀田 牧, 小山明日香, 橋本 衛, 池田 学. 血管性認知症の日常生活能力の変遷. 第 50 回日本作業療法学会, 札幌, 9 月 9-11 日, 2016

上野由紀子, 小山明日香, 石川智久, 橋本 衛, 池田 学. レビー小体型認知症の幻視の重症度と負担度に関する研究. 第 40 回日本神経心理学会学術集会, 熊本, 9 月 15-16 日, 2016

Fujise N, Koyama A, Abe Y, Nishi Y, Fukunaga R, Ikeda M. Living alone is associated with depression among male elderly in a rural community in Japan. WPA REGIONAL CONGRESS OSAKA Japan, Jun 6, 2015

Koyama A, Fujise N, Ikeda M. Epidemiological studies on mental health among the elderly. World Psychiatric Association (WPA) Regional congress Osaka Japan 2015, Osaka, Japan, June 4-6, 2015

Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, Ishikawa T, Nishi Y, Ikeda M.

Mental health among dementia caregivers: comparison with community residents. 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD) Congress, Kumamoto, Japan, September 14-16, 2015

藤瀬 昇, 西 良知, 中山 智子, 福永 竜太, 阿部 恭久, 向坂 香織, 小山 明日香, 池田 学. 地域高齢者うつ病スクリーニング調査でうつ病と診断された群の特徴. 第 34 回日本社会精神医学会, 富山, 平成 27 年 3 月 5-6 日

西 良知, 小山 明日香, 福永 竜太, 阿部 恭久, 向坂香織, 藤瀬 昇, 池田 学. 熊本県あさぎり町における老年期うつ病予防のための地域介入と自殺率の推移. 第 39 回日本自殺予防学会, 青森, 平成 27 年 9 月 13 日

Koyama A, Abe Y, Fukunaga R, Nishi Y, Matsushita M, Fujise N, Ikeda M. Withdrawal and its related factors among the community-dwelling elderly. WPA Section on Epidemiology and Public Health, Nara, Japan, October 16-18, 2014

小山明日香, 藤瀬昇, 松下正輝, 石川智久, 西良知, 橋本衛, 池田学. 認知症者における希死念慮を伴う抑うつの出現の特徴. 第 38 回日本自殺予防学会総会, 北九州, 9 月 11-13 日, 2014

長谷川典子, 小山明日香, 松下正輝, 石川智久, 荒木邦生, 池田学. 家族介護負担に影響する認知症患者の重症度および BPSD の縦断的検討. 第 33 回日本認知症学会, 横浜, 11 月 29 日-12 月 1 日, 2014

〔図書〕(計 2 件)  
池田 学, 小山 明日香. 女性と精神神経疾患 アルツハイマー病, 「はたらく」を支える! 女性のメンタルヘルス(丸山総一郎編). 南山堂, 東京, 290-294, 2017

小山明日香, 池田 学. 認知症とストレス, ストレス学ハンドブック(丸山総一郎編). 創元社, 大阪, 245-255, 2015

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山 明日香 (KOYAMA, Asuka)

熊本大学大学院生命科学研究部・助教  
研究者番号：50710670